

礼拝プログラム

2017年4月2日

司会: 西井兄 奏楽: 大倉姉 通訳: 町田姉

前奏 Prelude

賛美 Hymn

使徒信条 * Apostle's Creed

アナウンスメント Announcement

牧会祈禱 Pastoral Prayer

感謝献金 Offering

メッセージ Sermon

『エリヤ: 体をないがしろにしない』

"Elijah: Do Not Neglect Your Body"

賛美 Hymn

頌栄 Doxology

祝禱 * Benediction

* 印箇所は起立ですが、起立が困難な方は着席のままです。礼拝メッセージは英語に訳されます。必要な機器を会堂入口にてお求めください。Please feel free to remain seated or sit down when the congregation is asked to stand. The sermon will be translated from Japanese to English. You can pick up a translator device at the entrance of sanctuary.

アッシャー: スカーレット姉、ウイットワース姉

グリーター: リード姉、ワイトナック姉

ナーサリー: 本多姉、スタンクリフ姉

チルドレンチャーチ: 町田兄、奏姉

セキュリティ: 大野兄

来週、9日の礼拝

司会: 福島兄 奏楽: 西井姉 通訳: シラ姉

メッセージ: 「自分のことは分らない」

賛美: 新聖歌105、新聖歌112

アッシャー: マーシャル姉、ピータース姉

グリーター: メッツ姉、スタンクリフ姉

ナーサリー: ワイトナック姉、石井姉

チルドレンチャーチ: 大倉姉、仰兄

セキュリティ: ジェイ・ウォーカー兄

おしらせ

本日の礼拝後の予定

コーヒーアワー、バイブルスタディー、カレーランチ

■今日の礼拝ようこそいらっしゃいました。心より歓迎します。また続けてお越しください。

■今日はカレーランチです。どなたもお楽しみください。7月にもたれる修養会のためのバス・ファンドとしてファンドライブを募り、八尋ホールにボックスが置かれています。ご協力いただけましたら幸いです。

■来週の日曜日の午後、25ストリートにあるゴールデンヒル公園でイースターピクニック(エッグハント)を予定しております。ポットラックランチにご協力いただける方は八尋ホールの用紙にサインアップをお願いします。

■今年のグッドフライデー(4月14日)は午後七時から日英合同礼拝をもち、イエス様が十字架上で語られた七つの言葉をシェアし合います。日語部は『よく言っておくが、あなたは今日、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう』(ルカ23章43節)『わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか』(マタイ27章46節)『すべてが終わった』(ヨハネ19章30節)が割り当てられています。五分ほどの時間でこの御言葉に対して心に思うことをシェアしたいという思いがある方は牧師までお声をおかけください。

■今年の夏期修養会のバスを予約するために乗車人数を知りたく願っております。今年の修養会にバス乗車を希望される方は八尋ホールのサインアップシートにお名前をお書きください。

■日曜日のセキュリティチームが設置されるようになりました(8:30-10:30 & 10:15-12:15)。主に英語部の方達が前半、日語部の男性が後半、教会の内外を見回ります。このミニストーリーをおぼえてお祈りください。

今週の予定

3日(月)	連鎖祈禱日	
5日(水)	水曜集会	7:30pm-
6日(木)	木曜集会	10:30am-
7日(金)	ななみ会	10:00am-
	恵み会	10:30am-
	会報・イースターレター発行日	
8日(土)	白百合会	10:30am-

落着け

ブルース・マクニコルとビル・スラールは共著「指導者の出現」の中でこんなことを書いています。

ひとりの婦人が夢を見ました。彼女は大きなショッピング・センターの中にある一軒の店に迷い込み、その店のカウンターの奥にイエス・キリストを見つけ、会話を始めました。イエス様は彼女に言いました。「なんでも心で欲しいと思っっているものを言ってください」。婦人はびっくりしつつも、喜んでこうお願いしました「平安、喜び、幸せ、知恵、そして恐怖から解放されること。これらのことを私だけではなく、世界の人々がいただけますように」。するとイエスはにっこりと笑ってこう答えました「どうやら、あなたは誤解しているようですね。あなたに与えられているのは果実ではなくて種なのです」。

イエス様は「種まき」のたとえ話をよくされました。種まきはイエス様が育ったガリラヤ地方でよく見かける光景だったのでしょ。農夫は種を地に蒔き、そこからの収穫を待ちました。彼らはそのプロセスの間、自分でできる最善も尽くし、神の恵みがそこに注がれ、収穫を得ました。またイエス様はご自身が「一粒の麦の種」だといい、あの有名な言葉を私達に残されました。

『よくよくあなたがたに言っておく。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる』(ヨハネ12章24節)。

種を保管していても、それは一粒の種のままです。種は大地に蒔かれ、そこに水が注がれ、ケアされると実を結びます。主から託されている種が実を結ぶのは私達次第です。